

子ども・保護者・教師のかかわりがつくる体験活動

—第4学年「学校に泊まろう」の実践から—

島 本 靖

1 基本的な考え方

本校の総合的な学習「ふれあい」タイムのねらいを受けて、中学年では「学校や地域など、身近な集団や自然・社会の中で、互いのよさに気づき、自分らしさを発揮しようとする」ことを重点とした。中学年は、言語や思考の発達が著しく、抽象的な概念が形成し始める時期といわれている。この時期に、身近な人とのかかわりを通して自分自身をふり返り、自他のよさに気づきそれを認め合うことで、さらに自分のよさを伸ばしていくことができるものと思われる。

本実践は、児童の豊かな発想と自主的な活動を中心に、保護者がそれを支え、教師が働きかけるという学年による新たな試みである。単式・複式・養護学級の児童が、自ら楽しい学校生活を築くことを活動の原動力にしながら、そこで自分につながる人々と本気がかかわり、自他のよさや違いを認め合うことを目指した。また、総合的な学習の時間、特別活動、PTC活動を一体にしたダイナミックな活動の中で、児童が活動に没頭し夢中になって取り組むことを通して、それぞれの自分らしさが発揮できるものと考えた。

2 実践の概要

(1) ねらい

- ① 友だち・保護者と本気がかかわることを通して、互いのよさに気づくことができる。
- ② 活動に没頭し夢中になって取り組むことによって、自分らしさを発揮しようとする。
- ③ 見通し・追究・ふりかえりを通して、自ら考え・自ら判断し活動する。

(2) 活動計画

- ① 第一次 活動の見通し「中学年の新しい文化をつくろう」(学年集会)…………… 2時間
(実行委員会の提案・活動の決定・グループの決定)
- ② 第二次 追究タイム「調べよう・考えよう」…………… 4時間
(おいしい料理の作り方・隠れ家のデザインを考える)
- ③ 第三次 体験活動「学校に泊まろう」…………… 5時間
- ④ 第四次 活動のふりかえり…………… 1時間

(3) 特別活動から総合的な学習へ

4年生に進級した喜びと意欲を具体的な活動に結びつけたいと考え、4月から特別活動「夢のある2階をつくろう」に取り組んだ。南校舎2階は、3・4年生が生活する場である。「どのような2階をつくるか」に対して、初めは生活や学習に関する規律や規範に意見が集中したが、「もっと楽しくわくわくする企画」「3年生がびっくりするようなアイデア」を合言葉にアイデアの練り直しをした。すると、「放課後いっしょに遊ぶ」「勉強会を開く」「同好会をつくろう」などの新鮮な提案が出されるようになった。

また、児童の提案がいつでも発信できるように、「ふれあい掲示板」を南校舎2階に設置した。だれでも自由に呼びかけたり、情報を伝えたりできるので、たちまち児童にとっての貴重な情報手段となった。「サッカーWカップを一緒に応援しましょう。」「3・4年生で弁当を食べませんか。」「おもしろい本を紹介します。」このような児童による企画が常時「ふれあい掲示板」で紹介され、同学年・異学年のかかわりが増していった。

この「夢のある2階をつくろう」の取り組みを総合的な学習に発展させ、人とのかかわ

りの中で追究活動や直接体験を保障したいと考えた。そこで、まず学年集会を開催し、活動の見通しを持たせることにした。学年全体で企画・運営するという活動を通して、「自分たちが生活をつくる」ことのよさを実感し共感できると考えたからである。ここでは、多様な意見の中から「学校にみんなで泊まりたい」に多くの児童の支持が集中した。「おいしい料理を作りたい」「大きな家を作りたい」など、それぞれの自由な発想は限りなく広がり、「どのようにするか」を課題として個人やグループで検討していった。

(4) 保護者の参加

「学校に宿泊する」という企画は、児童が実行委員会を組織し具体化していった。「晩ご飯を作る」「きもだめしをする」「隠れ家作りをする」などの活動内容が明確になってきたところで、保護者にも協力をお願いした。児童による夢のような企画が実現するためには、保護者の協力が物理的に必要であった。また、自分たちの夢が保護者や教師の支えによって実現できることの実感は、何よりも自分という存在がまわりの人々によって生かされているとの認識に通じるものと考えた。幸いにも保護者側から積極的な賛同を得ることができ、PTC活動として保護者が参加することになった。児童と一緒に活動を楽しむことはもとより、会計や食材の準備などにおいても多大な助力を得た。

(5) 「学校に泊まろう」

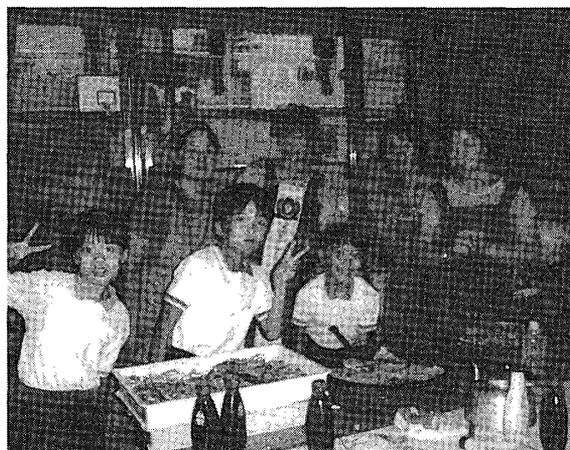
① 「屋台村をつくろう」

実行委員会によって提案され、みんなの合意によって決定した8つの品目をグループで分担して調理することになった。人に聞いたり、本やインターネットで調べたりして、おいしくできる調理法を探っていった。また、お客さんと呼ぶための工夫として、よく目立つ看板を製作したり、チラシや宣伝を考えたりして準備した。こうして、お好み焼き、カレー、たこ焼き、おでん、そうめん流し、フルーツポンチ、フランクフルト、串だんごのそれぞれの屋台が運動場に立ち並び、活気のある屋台村が完成した。趣向をこらした看板が雰囲気盛り上げ、元気なよい呼び込みの音が響き渡った。図らずも教育実習の最中であり、教育実習生がお客さんとして多数参加し活動を活気づけた。児童よりも保護者の方が夢中になっていると思われるほどみんな活動に没頭し、本気でかかわる場面も多く見られた。



② 「隠れ家をつくろう」

隠れ家・基地作りなどは、多くの大人が子どものころ経験した遊びである。しかしながら、現代の子どもたちにはこうした遊びに興じる環境が整っていない。「どのような秘密の隠れ家を作るか」ということを、「ああでもない、こうでもない」と子どもなりに議論を重ねながら、当日までにひとつのデザインにまとめてきた。また、段ボールやペットボトル、牛乳パックなど必要となる材料を家庭から持ち寄り集めた。段ボールを組み合わせたピラミッドのような



隠れ家、縦穴を掘り地下室のような隠れ家、樹木を利用してテントのように作った隠れ家など、それぞれ特徴のある隠れ家ができあがった。グループごとに保護者といっしょになって、試行錯誤を繰り返しながら造形遊びに夢中になっていった。ここでも保護者が大いに力を発揮し、大人の迫力を子どもに見せつけていた。

「学校に泊まろう」日程

第1日目		第2日目		
14:00	「屋台村をつくろう」 調理・看板作り・チラシ作り	6:00	「隠れ家を作ろう」	
15:00		7:00		起床・身辺整理
16:00		8:00		朝食(パンとジュース)・自由時間
17:00		9:00		
18:00	会食	10:00		
19:00	後片づけ	11:00		
20:00	校内でのきもだめし・花火大会	12:00	後片づけ・ふりかえり・解散	
21:00	近くの銭湯で入浴	13:00		
	就寝準備・就寝			

3 成果と課題

「学校に泊まる」との児童がわくわくするような発想と「屋台村をつくろう」「隠れ家をつくろう」の活動は、その計画・準備・実行を通して、児童が活動に没頭し夢中になって取り組む原動力となった。そして、児童が夢中になって調べたり、没頭して活動したりすることによって、まわりの友だちや大人とのかかわりも広がり深まっていった。

私は流しそうめんを作りました。おはうんがしそやしょうがやネギの切り方を教えてくださってとても勉強になりました。流すのもとても楽しかったからです。だけと竹をわめるのは少しつかれました。くんはせんでいそがしい女子の手伝いをしてくれました。私も知らず知らずのうちにそがしい人たちを助けるようになりました。次にかくれ家は少し男子と女子でケンカになたけれどくんはんを作ったり、ちよとした遊び場所を作ったりして、こう半からはとても楽しく作りました。牛にうパックでかべを作っているの少し強風がきてもこれならかべです。私は学校に泊まるなんて出来なと思っただけと四年のお家の方々が手伝ってくれたので出来たと思います。

「たくさんのキャベツ切るのに、〇〇さんが一生懸命切って、あっという間に終わりました。自分の手で大量のキャベツを休まず切っているのはすごいと思いました。」「(隠れ家作りで)〇〇くんが私では思いつかないアイデアを出していました。私もいろいろと考えて、いい発想をしたいです。」「〇〇さんのような器用な人になってみたいと思いました。ジャガイモの皮をきれいにむいたり、ねぶくろをきれいにたたんだりして、他の友だちのもやっていました。」人とのかかわりを通して、自他のよさに気づき認め合い、自分のよさを伸ばしていくことを個々の児童が意識していたことが、こうした活動の様子から見て取れる。また、見通し・追究・ふりかえりという学び方もより質的に高まっていることが、個々の児童の計画や調べ・作る活動の様子、ふりかえりの記述にも表れている。

このような点から、先に述べた本活動のねらいについては、ほぼ達成できたものと考えられる。今後も、児童・家庭・学校・地域のダイナミックな関係に着目した総合学習の可能性について、実践の事実から検討を重ねていきたい。